



日本歯科大学新潟病院

IVY NEWS LETTER

Vol.28
2015.8.1

～地域歯科診療支援病院と地域医療の融合を目指して～

医療の向上と研究

新潟病院副院長
寺田 員人



一昨年、身体の様々な組織や臓器になるとされるiPS細胞を作り出すことに成功した京都大学山中伸弥教授がノーベル医学・生理学賞を受賞し話題となりました。昨年、STAP細胞問題で科学研究の信頼性を失う危機となりました。科学研究は、高い倫理性が必要な活動です。そのために文部科学省と厚生労働省による新たな「人を対象とした医学系研究に関する研究指針」が今年4月1日に施行されました。医療は、科学研究を根拠に成り立っているのは周知のことです。医学研究の多くは、この指針に従って行われています。

ほとんどの医学研究は、研究の適正について第三者を含めた倫理審査委員会で審査した後、研究が開始されます。その委員会では、研究の内容の適正さ、研究協力者の保護などを審査します。自分の妻を研究の協力者として麻酔を施した華岡青洲の研究、あるいは有効性のために天然痘の予防として行ったジェンナーの研究(牛痘を接種されたのは自身の子供ではなく、ジェンナー家で働いていた父親のいない労働者が現在の見解のようです)は、現在の審査基準で判断すると、不適切とされる部分があります。その理由として、研究協力者の保護(身内あるいは弱い立場の人)が不十分なことと、研究者の身内ということで結果の信憑性に影響する可能性が高いことが考えられます。研究結果の信憑性が高くなければなりません。現在では、研究協力者の十分な保護を有する研究者と関係の薄い研究協力者が必要です。

医療の向上には、臨床での医学研究が必要です。今回の指針では、信頼性を確保することと研究協力者の保護が強化されました。そのため、患者様に研究の協力をいただく場合、以前より丁寧な説明、細かな点まで記載された同意書の作成が必要となりました。なお、研究の協力のお断りは、いつでも可能です(当病院では、診療科の受付、1階の病院全体の受付、話しやすいところでお伝えください)。



なお、医学研究が、適正で、そして精度の高い研究とするために、患者様にご協力をお願いすることがあります。その際、今まで以上に丁寧な説明と同意をお願いすることとなります。ご理解とご協力をお願いいたします。



Yショップ ご利用下さい!!



新年度を迎え新潟病院1階に新しく、売店「ヤマザキショップ 日本歯科大学店」が華々しくオープンしました。開店日のオープニングセレモニー以来、多くの方にご来店いただいておりますが、これまでご利用いただいた医科病院売店と歯科用売店の機能をあわせ持った店舗となり、さらに便利になりましたのでご紹介します。

営業時間は平日(月曜～金曜)8:00～20:00 土日祝日は10:00～16:00となり外来患者様、入院患者様はじめ近隣の皆様にもご利用いただけるコンビニエンスストアです。

パンのヤマザキならではの商品ラインナップと充実したお弁当類がおすすめです。歯科大附属病院として特に充実しているのが歯科衛生用具のコーナーです。歯ブラシ、歯間ブラシをはじめ用途に応じた歯磨き剤が種々並び、より快適なお口の環境を整えていただくために、保湿剤や洗口剤を取り揃えてあります。診療室でのご指導に、歯科衛生士による専門的口腔ケアに是非ご利用下さい。また入院患者様に必要な品々と介護用品、栄養補助食品のコーナーも広いスペースを占めています。

店舗に隣接してラウンジが新しく設置されました。カウンター席とテーブル席は自由にご使用いただだけ、診療後の患者様やお付添いの皆様に喜ばれています。となく診療室では緊張や疲労感を覚えがちですが、少しでもリラックスしていただければと思います。

時期を同じくして病院棟に向かって右手、講堂脇の医の博物館1階にGAKUSHOKU(学食)がリニューアルオープンしました。営業時間は平日(月～金)11:00～14:00のみですが、12:00から12:30を除けば比較的学食利用者が少なく、ゆっくりくつろげるとおもいます。こちらも併せてご利用ください。





認知サポーター養成講座を開催しました

●訪問歯科口腔ケア科
認知症キャラバンメイト

吉岡 裕雄



昨今、日本歯科大学では全学を挙げて認知症に対する理解を深め、知識のみならずその対応について取り組んでおります。その一環として、新潟病院では平成27年6月4日に認知症サポーター養成講座を教職員に向けて開催いたしました。「認知症を知り地域をつくるキャンペーン」として認知症サポーターを全国で養成し、全国が認知症になっても安心して暮らせるまちになることを目指す「認知症サポートキャラバン」が2005年より全国で展開されています。当初100万人の養成を目指したこのキャンペーンも2015年4月の時点で600万人を超えました。認知症サポーターは何か特別なことを行う人ではなく、認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る「応援者」です。認知症の方や家族が困っていたらそっと寄り添いお手伝いをします。

今回の講座では、最初に認知症の正しい知識を講義した後に、実際の事例をもとにその対応について全員で考えました。今回は普段から認知症の方のケアを行っている訪問歯科口腔ケア科のスタッフにお手伝いしてもらって寸劇を交え、一般的なことから歯科診療時、訪問診療時、院内での認知症の方への正しい対応方法の理解を深めました。

認知症サポーターはその目印としてオレンジ色のリングを身に着けています。今回の講座でも院内の職員にこのオレンジリングを配布してます。新潟病院では認知症の方やそのご家族の方も安心して治療が受けられる様、職種を問わず教職員一人一人が認知症を正しく理解し、その対応を実践します。





ドライマウス患者への漢方薬治療

— 新潟ドライマウスセミナー報告 —

●新潟病院口腔外科

中川 綾



「ドライマウス(口腔乾燥)」の患者が急増し、ドライマウス患者の多くは高齢者であり、その理由として我が国においては超高齢化が進んでいるためであり、その罹患率は今後も増加していくことが予測されます。また、生活の質が向上し、今まであまり重要視されていなかったドライマウス治療の要求が増加し、新しい評価方法や治療薬が発展してきたことも要因と考えられます。

今回、平成27年3月19日(木)に新潟ユニゾンプラザにて新潟ドライマウスセミナーが開催されました。日本歯科大学新潟病院 口腔外科 准教授 戸谷収二先生が総合司会として開会の挨拶とセミナー発足の経緯を説明されました。まず製品紹介としてクラシエ薬品株式会社より『クラシエ白虎加人參湯エキス錠』の製品紹介が行われました。白虎加人參湯は白虎湯の構成生薬である、石膏、知母、浩粳米、甘草に人參が加えられており、石膏を中心とした止渴作用、知母を中心とした解熱作用、石膏、知母、浩粳米、甘草、人參による滋潤作用のブレンドにより、近年抗コリン作用を有する薬剤(向精神薬)、抗不整脈薬、泌尿器科薬等、による口渇、高齢者、糖尿病における口渇などでその高い有効性と安全性が報告されています(表1)。

臨床報告では、向精神薬による口渇に対する白虎加人參湯の効果に関しては、証(しょう)を考慮しない一律投与にも関わらず、山田ら、成田ら、和木ら、矢部らはやや改善70%以上と極めて高い有効性を示しています。ドライマウス患者に対して従来の顆粒製剤は味がまずく、高齢者が多いことより義歯や歯の間に入り込んで残ってしまいがちであり、乾燥した粘膜に張り付きやすい傾向があり、錠剤であれば味を感じづらく、飲み残しが少ない利点があるようです。

次に座長に新潟大学医歯学総合病院 口腔リハビリテーション科 伊藤加代子先生をお迎えして一般講演では私、中川が『白虎加人參湯エキス錠のドライマウス治療効果』と題して発表をさせて頂きました。当院口のかわき治療外来を受診した患者へクラシエ白虎加人參湯エキス錠を内服した後の唾液分泌量と乾燥感(VAS値)

●表1 クラシエ白虎加人參湯エキス錠(EKT-34)

〈効能：効果〉
のどの渇きとほてりのあるもの

〈組成〉
本品9.0g中に下記の割合の混合生薬の乾燥エキス5.0gを含有する。
石膏(セッコウ)・・・15.0g 甘草(カンゾウ)・・・2.0g
知母(チモ)・・・5.0g 粳米(コウベイ)・・・8.0g
人參(ニンジン)・・・1.5g

〈生薬薬理〉
石膏・・・止渴作用、利尿作用
知母・・・解熱作用、血糖降下作用
人參・・・強壮作用、免疫増強作用、血糖降下作用ほか
甘草・・・抗炎症作用、抗アレルギー作用ほか
粳米・・・止渴作用

〈応用疾患〉
糖尿病の初期、熱性疾患、シェーグレン症候群など
(口渇と熱感などの症状を伴う場合に用いる。)



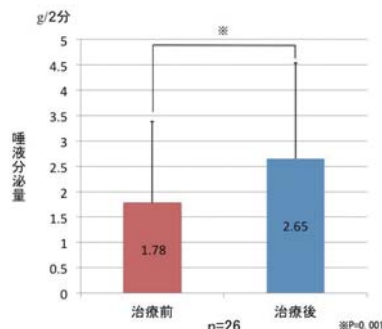
を測定し、2群間の差の検定にはWilcoxon signed-rank testにて $p < 0.05$ を有意差ありとした結果、白虎加人參湯の内服前後では唾液分泌量は有意に増加($p = 0.001$) (図1)、また乾燥感の自覚症状はVAS値の有意な低下を示し

($p = 0.001$) (図2)、ドライマウス患者の治療薬として有効な薬剤であることを報告しました。

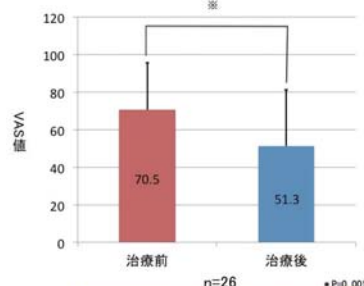
さらに日本歯科大学新潟病院 口腔外科 科長 水谷太尊先生、特別講演に新潟県厚生連 上越総合病院 歯科口腔外科部長 桑原 徹先生をお迎えして『口腔外科診療からドライマウス診療まで』というテーマで講演をいただきました。漢方薬の種類や選択方法など、漢方薬それぞれの特徴や性質という基本的な知識から臨床応用へ実際の症例を紹介して頂き、とても今後の診療に役立つ内容でした。

現在、ドライマウス患者への対応が重要であるなかで、漢方薬治療について興味を示し、講演の後には質問がたくさん寄せられ大変有意義なものだったと思います。またこのような機会があればまた、近況報告をしたいと思います。

● 図1 唾液分泌量(サクションテスト)の変化



● 図2 平均VAS(乾燥感)の変化





■ 地域歯科医療支援室から

日頃から当院の地域歯科医療連携につきましてご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

新年度から「口腔インプラントセンター」の名称を「口腔インプラント科」に変更いたしました。それに伴い「紹介患者事前申込書(FAX用)」を修正しました。同封いたしましたので、複写の上で利用いただければと存じます。

患者様のご紹介、ご相談、地域連携に関するご意見、ご要望などございましたら、地域歯科医療支援室(直通☎025-211-8228)までお願いいたします。

※今年度よりIVY NEWS LETTERの発行を年3回にさせていただきます。



日本歯科大学新潟病院地域歯科医療支援室

メールマガジン登録の御案内

■近年、歯科界を取り巻く情勢は厳しく、医療法改正や診療報酬改正においても、医療安全、院内感染対策をはじめとする研修の義務化や、医科歯科連携を含む他業種との連携強化などが要件として盛り込まれるなど、各種医療情報の早期収集や病診連携が重要になっております。このような現状をふまえ、新潟病院地域歯科医療支援室では、地域の歯科医師を対象に、メールマガジンを開設いたしました。

■本事業にご登録いただくことにより、新潟病院関係各科からの医療情報や医療安全情報、研修会、講習会、学会情報などの御案内を優先的にさせていただくシステムです。

■登録ご希望の先生は、申込書を支援室直通FAX(025-267-1546)していただきたく存じます。申込書は、新潟病院ホームページ地域歯科医療支援室(<http://www.ngt.ndu.ac.jp/hospital/index.html>)からダウンロードできます。

■なお本システムのサーバ管理は、新潟病院生命歯学部ITセンターにて行います。また地域歯科医療支援室は、本事業における収集した個人情報の漏洩、滅失又は棄損の防止、その他収集した情報の適切な管理のために必要な措置を講じます。

【注意事項】

受信される先生のメール環境によっては、マガジンのメール容量が重いため配信できない方がおられます。添付ファイルの軽量化を図るなど、改善策を講じておりますので、しばらくお待ちください。

【免責事項】

メールの配信については、回線上的問題(メールの遅延、消失)等により届かなかった場合の再送は行いません。本事業は、新潟病院の都合により、「新潟病院ホームページ」において予告した後に中止又は廃止されることがあります。新潟病院は、本事業の利用、運用の中止、延期、終了等により発生する一切の責任を負いません。



●本メールマガジンへのお問い合わせ、ご意見、ご希望ありましたら、shien@ngt.ndu.ac.jpまでお寄せください。

編集
後記

■いよいよ、夏・本番に突入ですね。みなさんにおかれましては、夏の暑さ対策は万全でしょうか。今年も、夏のさまざまなイベントやドラマがあることを期待します。夏本番は水分補給をしっかりと行って熱中症の対策や、海水浴の際の過度の日焼けにも気をつけて、いい夏を迎えていきましょう。(高)



日本歯科大学新潟病院

IVY NEWS LETTER



発行日／平成27年8月1日 発行人／山口 晃

〒951-8580 新潟県新潟市中央区浜浦町1-8

TEL 025-267-1500(代) FAX 025-267-1546(支援室直通)